



# 猿だらけの道を行く 浦山ダム

東日本建設業保証株式会社  
建設産業図書館  
**江口知秀**  
Tomohide Eguchi

**埼** 玉県秩父市にある浦山ダムは、全国第六位の堤高一五六メートルを誇る大規模ダムにもかかわらず、秩父の市街地に近いため、交通の便もよく気軽に行くことができる。しかも、「地域に開かれたダム」の指定を受けて一般開放されており、ダム下の左岸広場から堤体内をエレベーターで天端まで一気に昇ることができるという。

最寄りの浦山口駅はダムに近すぎるので、私と同行者は秩父の表玄関である西武秩父駅から歩くことにした。それでも一時間半はかかるまい。道中、本屋に寄ったり、蕎麦と酒を食らったりして、一四〇号線から七三号線へと歩いていくと山道になってきた。しばらくすると分岐があり、右へ曲がれば目的の左岸広場だが、このまま七三号線を進めば、たった一キロでダムの天端右岸まで行けるのだという。エレベーターには乗ってみたいが、予定変更は私の常だ。山道なのに珍しく歩道もしっかり整備されているし、ダムまで途切れることはないだろう。秩父札所巡りの巡礼者のために設けられたのだろうか。車に跳ね飛ばされる危険も少なくなるので、私のような者にはとてもありがたい。

しかし、連休初日のこんないい天気なのに、他には誰も歩いておらず、せつかくの歩道がもったいな

いと考えていると、人はいないが猿はいた。数分先をニホンザルが尻を見せつけながら、歩道を登っていく。そうすると、周りの木々が時々ざわざわと鳴るのは、どうやらサルの仕事らしい。すぐそばの木にも気配がするが、特に危害を加えられることもなく、ダム天端右岸にある浦山ダム防災資料館「うらびあ」にたどりついた。

「うらびあ」は一階がレストランとなっており、テーブルに置かれたメニューには、平成二十六年十月から「浦山ダムカレー」が提供開始されたことある。ハムカツののったダムカレーは、高さ約三五メートル、長さ約一八〇メートル、重量約二〇〇トン。注文生産でバラツキがあるので、値段まで約七五〇円なのだとか。

ダム天端はゆったりとした遊歩道になっており、キラキラ輝く美しいダム湖や秩父の街並みを眺めながら左岸まで歩き、そこからダムの足元へと通じる四九八段の階段を下りて、いろいろな角度からダムを楽しむことにする。

半ばくらい降りたところでダムを見上げると、堤頂部に施されたアーチの意匠が、まるで城砦のように見えた。意匠のモチーフは、平成二十六年五月号で紹介した旧秩父橋のアーチだという。結局、楽しみにしていたエレベーターには乗らずじまいとなった。

帰り道、同行者が興奮して「後ろを見る」とわめいた。すると、かなりの数のサルが車道をわたって山に帰っていくところだった。里での食事の時間が終わったのだろうか。親ザルは車道をわたり、子ザルは車道の上の電線を、次から次へと伝っていくが、みんな同じところですべり落ちそうになる。どのサルも、どのサルも。まるで動画のループ再生を見ているようだった。



浦山ダム

[交通] 秩父鉄道 浦山口駅から徒歩約20分